



学校通信

令和4年

9月30日

河北町立

谷地中部小学校

わたしが授業の主役になったとき…

9月8日(木)、村山教育事務所学力向上支援チームによる学校訪問がありました。これは、村山教育事務所の学力支援アドバイザーや指導主事からなる学力向上支援チームが、年に複数回学校を訪問し、教員の指導力向上と児童の学力向上に向けた学校の日常的・組織的な取組に対する指導や支援を行う事業です。本年度、本校は、この学校訪問を希望し、特に算数を中心とした学力向上に力を入れています。

令和4年度本校学校経営の重点の一つとして、「確かな学力を育む高学年教科担任制の推進」があります。たとえば、6年生は、専科教員による授業(算数、社会など)や1組、2組担任の交換授業(1組担任が両学級の理科、2組担任が両学級の音楽や家庭など)による専門的な授業を行っています。その中でも、5、6年生4学級の算数は、算数専科教員を配置し、各学級の担任と2人でティームティーチングによる授業を展開しています。これには、子どもたち一人一人が今以上に算数を好きになり、「算数を学ぶ楽しさ」や「他教科や生活の中で算数を使うことのよさ」を実感してほしいという願いが込められています。

夏休み前、6年生に「算数の授業について、5年生の時の算数と比べてどのように感じていますか？」というアンケートをしました。「Q学習がわかるようになりましたか?」「Q学習が楽しくなりましたか?」の問いに対しては、両方とも9割近くの子が「とても楽しくなった。」「少し楽しくなった。」と答えてくれました。理由としては、「前よりもわかるようになった。2人の先生がていねいに教えてくれる。」という感想もありましたが、「友だちやグループで協力しながら問題を解くことで算数が好きになった。」という、中部小の強みを生かした「多くの仲間との協働的な学び」や「仲間と

の切磋琢磨」を挙げてくれた子も多くいました。

5、6年生の教室前のスペースには、子どもたちが自分たちの授業を自分たちで作っている様子が掲示されてあります。自分たちが授業の主役になった軌跡です。

校長 丹野 宏紀

